

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第62号(201409)

発行 竹田幸男



寝屋川竹炭づくりの会 第三回活動展 見学

8月8日、例会開催前の午前中に門真市の松心会館で開催中の展示会に会員有志5人が参加しました。寝屋川竹炭づくりの会は会員の田淵さんが会長として活躍されています。

例会の窓

平成26年8月例会

日時：平成26年8月8日（金）

13：30～16：30

場所：寝屋川市民活動センター4階
ワーキングスペース

出席：天野 新井 小林 佐伯 竹下 竹田 谷 田淵 富田

欠席：なし（50音順敬称略）

例会次第

1. 各会員の最近の活動状況・情報交換

- ・会報掲載の「AVCメモ」の内容を中心に話題を提供した。今回は61号掲載の「ファイルやーい」に基づき、USBメモリーなどを接続したため外付けハードディスクのドライブ文字が移動することによる編集の不具合について実例と対策を説明し、皆さんの体験談を聞いた。
- ・複数の外付けハードディスクを分岐アダプターで一括してパソコンに接続する場合、接続先のパソコンによってそれぞれドライブ文字の組み合わせが変化する、という報告もあった。

2. 報告・連絡・協議事項

（1）会報筆者 谷さん

（2）今日午前の「竹炭づくり活動展」について

- ・同好会から5名参加した。
- ・「寝屋川竹炭づくりの会」として発足以来、10年目である。
- ・同好会の田淵さんが会長として活躍されている。
- ・活動展日程はH26年8月6日～8月9日および8月18日～8月23日なので、まだの方は是非参観を。

（3）9月以降の例会日は、毎月第2水曜日と決定する。

（4）撮影会

- ・交野ドームを利用して撮影とレクリエーション（バーベキュー）と例会をしてみようか。撮影会は距離的に難しいかもしれないがバーベキューを中心にレクリエーションとして同好会は賛成することに決定した。

（5）同好会ビデオ作品発表会対策

- ・平成27年3月14日に向けて準備を開始する。1月には出品作を確定する必要がある。

（6）プレミアエレメンツ12学習会計画

- ・ 9月7日(日)市民活動センター ワーキングスペース
9:00~17:00開催
- ・ 出席者 新井さん、小林さん、佐伯さん、富田さん、谷さん
- ・ 講師 竹田さん
当日までに 教科書を購入して頂く(詳細後ほど連絡)。

- (7) ナレーション講習会計画 9月20日(土)14:00~15:30
- ・ 会費300円 その場でナレーションを入れて貰う場合 2000円
 - ・ 出席者 新井さん、佐伯さん、小林さん

(8) ふれあいフェスタ

- ・ 11月8日(土)市民活動センター
- ・ 「テープ救出作戦」のタイトルの下に特にVHSテープ、DVテープ、カセットテープの変換の必要性と方法のPR、実演を行いたい。
- ・ ロッカールームを利用して映像を写してはどうか?

3. 映写・合評

(1) 谷さん 縄文杉 8分

- ・ 行きたくて、行きたくて娘さんを連れて行った屋久島。何故行きたかったのか、その結果はどうだったのか、が、もっと出ていれば良かった。
- ・ 会員の中で、昭和35年に屋久島に行ってトロッコに乗せてもらった。また営林署で泊めてもらったとの話も出て、話題になった。
- ・ 移動中はともかく、ここぞ、という風景では手ぶれが気になる。三脚は持っていきたいものです。

(2) 富田さん 大阪市営渡し船 7分30秒

- ・ ツアーに参加されて撮影され、編集されていない映像
向こう岸からこちらに向かう渡船を撮影した後、その船で対岸へ渡るまでの経路を撮影されています。作品としては、船が出ていく所を岸から撮る場面なども欲しいので、ツアーに参加しながらでは必要な場面が揃わないと思われます。渡船を作品の題材にするには自分の足で歩く必要があると思います。せっかくの題材なので、なぜ、渡船が必要だったのか、その歴史等も渡船を扱う作品にとって欲しい内容です。

(3) 天野さん 枚方支部同好会紹介ビデオ 9分9秒

- ・ ホームページからダウンロードされた静止画だけを使って纏められた。それぞれの同好会がいつ、どこで、どのように活動し、費用はいくらなど要点がしっかり押さえられていて新入会員に対する同好会PR映像として非常に効果的な仕上がりです。

映像同好会の会員が、もっとこのような映像を作って頂きたい。そのサンプルだと思います。

(4) 小林さん 解像度テスト映像

- ・先月のテスト映像の解像度が？ だったのでワイドコンバータ付と無しの映像を比較撮影した。石清水八幡宮の神社の同じ場面をコンバーターあり、無しで比較撮影した。
- ・木々の葉のあたりが、ワイドコンバーター付ではぼけが大きくなるが、これは、より画角が広くなるため解像度としては不利な方向になる。今のビデオカメラは結構レンズがワイドなのでワイドコンバーターは風景撮影に使うより近接した狭い場所を広範囲に撮りたいようなときに使うべきであろうと思われます。

4. 来月の開催日 9月10日(水) 13時30分 4Fワーキングスペース



オカリナで被災地訪問

谷 弘子

東日本大震災から3年過ぎようとしています。

名古屋でオカリナ演奏をしてボランティア訪問されているグループがいます。今回岩手県大船渡市の仮設住宅に3度目の訪問をされるとお聞きして、私も参加させて頂くことになりました。



(平成23年3月12日撮影)



(平成23年3月13日撮影)

(いずれも大船渡市ホームページより)

経路

大阪空港 いわて花巻 新花巻 釜石 （三陸鉄道南リアス線） 盛
大船渡ホテル

ホテル到着後、駐車場の端の方で、オカリナ演奏の練習をしていました。雨が降って、手がかじかむ寒さでした。それをホテルの社長さんが見られて、どうぞホテルの部屋へと案内して頂きました。その部屋が、以前、歌手の新沼謙治さんが結婚式をされたときの同じ披露宴の場所でした。広くてきれいで絨毯もすばらしい。思わず「嫁に来ないか」歌謡曲を披露したくなる気分でした。心も身体全身も温かくなりました。社長さん！ 有り難うございました。

オカリナメンバーから4名参加。

先生、オカリナ練習3ヶ月の女性、ギター担当の女性、そして歌専門の私、実際はビデオ撮影。以上4名。

活動第1日目（到着翌日）

大田仮設住宅 AM10時～11時

上平仮設住宅 PM14時～15時

活動第2日目

地ノ森仮設住宅 AM10時～11時

演奏曲

昴・おかあさん・北国の春・精霊流し・アンパンマン・背くらべ・夜霧のしのび逢い・さんば・長崎の鐘・愛燦々・茶摘み・二輪草・千の風になって・青葉城恋歌・人生劇場 等々。

皆さんに選んでもらって演奏したり 歌ったりして楽しみました。

二輪草では うちわをもって踊り出す方。2才の男の子と一緒に来られた祖母夫婦。オカリナでドレミファソラシドがふけるようになった男性の方。カメラを意識して、大きな声で歌う方……。

演奏後、握手をした女性は、「震災で、家をすべて流されました。」「記憶がとんでしまっただけで。」今はご主人と二人暮らし。ご主人は認知症で今日はデイサービスなのでここに来られたとの事。

車で移動中、見た光景は、以前商店街だった所がなくなっています。鉄筋の建物がそのまま残っています。再建が進んでいるところでは、JRが通っていた場所に今はバスが走っています。新築された家もあります。

スーパーで今は、何でも買えます。テレビで見た屋台村も歩いて行ってみました。昼ご飯の時にいったお店で、震災後ボランティアで来られた、スマップのメンバーの写真を見つけました。

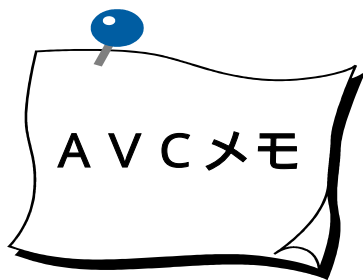
今回演奏会に参加させて頂き私の方が緊張の連続でした。皆さんの笑顔のビデオが撮れてほっとしています。撮るよりも もっと皆さんと一緒に歌いたかったのが本音です。

先生は、何処へ行かれても 話題豊富でいつも笑顔。雰囲気づくりもお上手。もう一人の女性の方は、列車に乗っている間、前に座られた地元の女性の方とおしゃべりされること 1時間。気さくな方でした。

ギター担当の女性は、私より若く看護師さん。大学の先生をされています。初めてお会いして一緒に2泊。話しやすく夜遅くまでおしゃべりしました。ご主人はビデオカメラ撮影そして編集もされるそうです。

3週間後 大船渡オカリナ演奏会の思い出のDVDが完成。ご一緒した3名の方にDVDをお渡しました。

皆さんに、喜んで頂けて、幸せを感じ、よくやったなあと自分を褒めています。又同好会に入会させてもらったからこそ 出来るのですから感謝しています。いつの日か 名古屋で皆様と再会できる日を楽しみにしています。



舞台撮影の一つのノウハウ 断片

竹田 幸男

ビデオカメラを持っていると舞台を撮してくれという要望が舞い込むことがあると思います。舞台というのは、毎回一度きりの表現芸術で、舞台のプロはともかく、私たちに依頼をされるような一般のアマチュア舞台人にとっては、大きな舞台というのは何回も経験できるのではないので、映像で残したい、という気持ちも強いものと思います。その要望に応えるためにも、依頼されたら良い姿を残してあげたいものです。

舞台撮影で気をつけたいのは、特に開演前に幕が閉まっている場合です。こういうときは幕が開く前から撮影を開始しておきたいものです。所が困ることは、幕が開くまでは出演者が、どこに、どのように配置されているかがわからないことです。踊りのように出演者が一人の場合、また団体の場合などで人の配置が異なりますし、和洋を問わず音楽の場合も同じようなことが言えます。

リハーサルなどを見ることが出来れば、大体のことはわかりますが、それが出来ない場合が多いと思いますので、演技の内容によって、演技者がどのようなところに居るか、という想定を持つことが大切です。この想定に従って左右、上下の画角、そしてズームの量を予め決めて用意します。基本的にはワイドからのスタートです。が、時にこの想定が外れることもあります。幕が上がっていくとき、いち早く演技者の位置を確認し、想定がずれていたら、左右、上下の位置をゆっくりと最良の位置へ修正しながら、同時に適当な焦点距離になるようにこれもゆっくりと移動させていきます。両手を使ってバランス良く調整していく。これらの調整は決して急いではいけないので、急ぐと「カク・カク」とカメラが揺れ（即ち画面が揺れ）、ズームも2段ズーム・3段ズームになって見るに耐えない映像になってしまいます。

2段ズームというのは、私が勝手に付けた名前ですが、ズームをしてアップに持って行って（またはワイドに引いて行って）一旦止まって、やはりこれでは不足と、もう一度ズームを始めることを言います。場合によってはズームが行き過ぎた、とばかり、行ったり来たり「ブランコズーム」の状態になってしまいます。

凝った撮影をする場合は、2台、3台のカメラで同時に撮影することもあります。編集は大変ですが、テレビ放送や映画のような魅力的な映像を得ることが出来ます。どれか1台のカメラの映像・音声を基本にして、他のカメラはインサート画面に入れて、その音声は消します。このとき大切なのは基本の映像・音声に対してそれぞれのカメラの映像をぴったり揃えることが大切で、そのためにも幕がしまっている間からスタートすることが必要です。演技が始まってから撮影を開始すると映像の位置合わせが大変です。特に演技の途中から撮影を始めると、その映像は、他のカメラの映像のどの部分と同じなのかを判断することが非常に難しくなります。

複数のカメラを使うとき、カメラの切り替えをどこですか、という問題があります。これも適当なところで切り替えたらダメなので、ノウハウがあります。これについてはまた改めて書きたいと思います。